



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社” 治田 友香 さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社”



治田 友香 (はるた ゆか)

関内イノベーションイニシアティブ株式会社

代表取締役

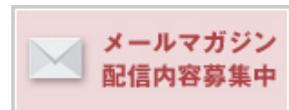
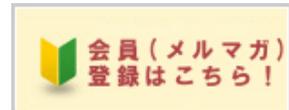
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。

建設会社、日本NPOセンター、シーズ=市民活動を支

える制度をつくる会スタッフを経て、2007年から起業

家支援財団へ。2013年3月に同財団事務局長を退職。

2010年12月に同社取締役、2013年6月から現職。



もっと詳しく検索する

1.関内イノベーションイニシアティブについて

Q. 関内イノベーションイニシアティブは、横浜で活躍する起業家の育成に取り組む“まちづくり会社”とお伺いしています。始めに事業を始められたきっかけとコンセプトについてお聞かせください。

私達、関内イノベーションイニシアティブは、横浜市の都市整備局のモデル事業をきっかけとして始まりました。当時、横浜市肝いりの施策として、経済的に地盤沈下していた関内地区における民間の力を活用した街の再生策の募集があり、これに応募したのです。100坪以上の空きビルを有効に活用することというのが課題だったのですが、これに私たちの起業家支援財団のアイデアを選んでいただいたのがきっかけです。

会社の設立は2010年の12月。採択されたら会社を作ると提案しており、市内の主な企業からも出資していただいて、株式会社としてスタートしました。順調に年度末にシェアオフィス“mass×mass”を開設できるように段取りを行ったのですが、開設日がたまたま東日本大震災のあった3月11日であり、開設祝いができませんでした。

会社の事業コンセプトは、あたらしいチャレンジをする人を応援する、しくみときかけを創り出す“まちづくり会社”です。“まちづくり会社”を自称しているのは、街の活動を担う人材の育成・輩出を通じて、街の活性化を支えることが重要だと考えたからです。横浜エリアをもっとオモシロク・豊かな街にしていくために、新しい発想を持って、“mass×mass”の入居者や、ここで提供する講座を受講する人たちがどんどん街に関わってくれればいいと考えました。入居者にもこの考え方をご説明し、ご理解して頂いた方に入居して頂くようにしています。

いわゆるエリアマネジメントを行う会社ではありませんが、シェアオフィスを拠点として、これからの街のプレイヤーとして欠かせない、新しい価値を創り出す人を応援するという意味での“まちづくり会社”です。



Q. 関内イノベーションイニシアティブは、あくまで自立した民間企業であって横浜市の関連団体というわけではないのですね。

そうなんです。シェアオフィスの運営とともに、力を入れてきたソーシャルビジネスの支援がNPOのような事業内容なので誤解されている方も多いのですが、会社の設立趣旨にご賛同いただいた市内企業からの出資で設立、運営している株式会社です。市から出資を受けている第3セクターではありません。確かにきっかけは横浜市の都市整備事業ですが、市から資金を出していただいたのは、最初の一年間だけです。その後は、横浜市の他に、内閣府や厚生労働省の事業などを受注してなんとかやってきました。

横浜市からは、ここ3年間ほどソーシャルビジネスの支援事業等を受託していますが、他の事業者との競争を勝ち抜いて獲得したものです。決して何もしなくても定常的に市から仕事を請けられるという状況ではありません。ずっと緊張感をもってやってきました。

むしろ、事業を行うに当たっては、民間事業者として行政の縦割りに捉われないように心がけています。もともと横浜市都市整備局の事業としてスタートしたわけですが、今は経済局ともお付き合いしています。また、最近では食に関連して農業関連の部署ともお付き合いするようになりました。

行政の縦割りにとらわれず、組織改善や新商品開発を促す大企業等のフューチャーセンターとも異なり、いろいろな分野の主体と関わり、関係者をつないでいけることが、自分達の存在意義であり、強みだと思っています。

1 2 3 4

登録日 2016年8月18日（木曜）00:00





コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社” 治田 友香 さん

- 街と、人と、生きていく。 マチビト
- まちづくりコラム
- タウン誌事例集
- マップ事例集
- 取組事例
- 地図から検索

あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社”

2. 関内イノベーションイニシアティブが取り組む事業内容について

Q. 具体的な事業内容について教えてください。

関内イノベーションイニシアティブが展開している主な事業は、①“mass×mass”のシェアオフィス事業、②起業創業・経営サポートを行うスクール事業、③FAAVO横浜としてのクラウドファンディング事業、④団地再生や地産地消のお弁当販売などを通じた地域活性化事業の4事業です。

■シェアオフィス事業

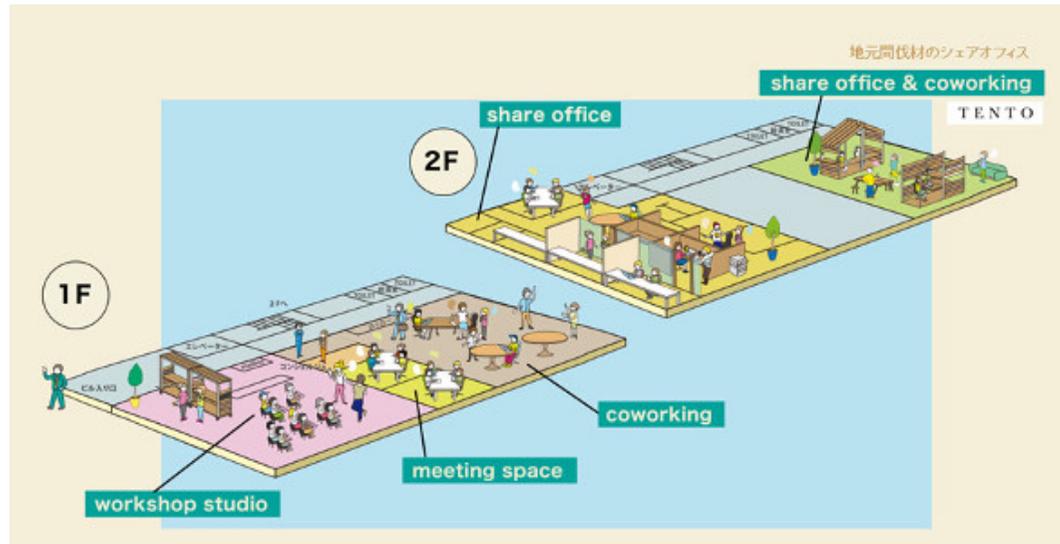
シェアオフィス事業を展開している“mass×mass”は、195坪のレンタルスペースで、私達の活動の拠点でもあります。横浜市中心企業共済会館ビルの1階にシェアオフィス50坪、コワーキングスペース50坪、2階は通常のシェアオフィス65坪に加え、“TENTO”という30坪の間伐材を用いたシェアオフィスを提供しています。

入居者はここを本店・事務所として登記することもできます。入居は約80社。シェアオフィス事業でいたい事業収入の半分を確保しています。

“mass×mass”の施設構成



もっと詳しく検索する



■ スクール事業

スクール事業としては、横浜市から委託されている人材育成事業「ソーシャルビジネス・スタートアップ講座」が、今年で3年目を迎えました。これはソーシャルビジネスの起業を通じて、地域や街、社会の課題をビジネスの手法で解決したい人のための起業支援講座で、全15コマ11日間の講座を無料で年2回開催しています。起業を通じて社会問題を解決したいという方は意外とたくさんいます。定員は25名ですが、毎回40名程度の応募があります。昨年度受講した92名から13団体が起業しました。1.5ヶ月の講座受講生の起業率としてはかなりのものだと思います。

他にも神奈川県から受託しているNPO団体の成長支援事業「ボランティア・エ

先輩起業家による事例紹介（清水愛子講師）



http://massmass.jp/project/2016_sbsp06_report/

mass×mass cafe



ース・プログラム」や、自主事業として、マスマスカレッジ（ローカルジャーナリズム講座、食と農のプロデューサー養成講座、実践創業講座など）も開催しています。様々な形で5年間続けてきたスクール事業の受講者はもう少しで1,000人を越えるところまでできました。



http://massmass.jp/event_and_school/0604_report/



受講生のネットワークづくりにも注力しています。卒業生に講師になってもらうこともあります。新しい働き方の発信基地として、起業だけでなく、マッチングの場も提供できればと考えています。

■クラウドファンディング事業

関内イノベーションイニシアティブは、講座修了者が起業する場合の次のステージの支援を意図して、クラウドファンディングのプラットフォームFAAVOのフランチャイジーを務めています。

クラウドファンディングはネットに情報をあげればなんとか資金が集まるかという、それほど簡単なものではありません。私達は、常に地域から見られているので、受講者に失敗させるわけにはいきません。重要な見込み客の獲得から、ネットを通じた資金獲得まできちんと指導することによって、高い成功率を実現しています。

「横浜発！新しい食文化を創造する
レシピ本をつくりたい！」



<https://faavo.jp/yokohama/project/1355>

これまでに2年かけて1,400万円集め、12プロジェクトのうち11プロジェクトを成功させています。FAAVOのフランチャイジーの中では大阪市とともに高い達成率を達成していると思います。最近では、「横浜発！新しい食文化を創造するレシピ本をつくりたい！」という事業に資金を募り、調達目標を達成しました。

■地域活性化事業

ご存じないと思いますが、横浜は小松菜全国2位、じゃがいも全国8位の出荷量を誇る意外な野菜の産地です。「まちなか社食」は、このことに着目して、老舗仕出し弁当屋うお時とのコラボレーションで開始したプロジェクトです。新鮮で美味しい野菜のお弁当を毎日コワーキングスペースで提供していて毎日70食の売上があります。起業家の拠点を果たす“mass×mass”が外から入りにくい施設では困ります。「地域の社員食堂」として昼食の場を提供することは、様々な人に“mass×mass”に来ていただく上でも意味のある取組だと思っています。

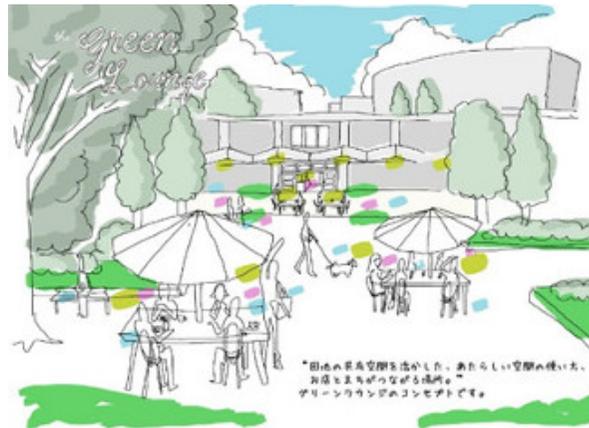
また、昨年度実施した「グリーンラウンジ・プロジェクト」では、神奈川県住宅供給公社、公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会、KEMURI DESIGN WORKSと連携して、昭和40年代に開発された相武台団地の空店舗のリノベーションに取り組みました。「地域とつながる」「地域を豊かにする」ソーシャルビジネス推進の観点から、オープンカフェの開設に参画しました。

まちなか社食



<http://machinaka-shashoku.strikingly.com/>

グリーンラウンジ・プロジェクト



http://massmass.jp/project/greenlounge_start/

この他、「ヨコハマ・イノベーション・スクラム」では、ソーシャルビジネスの活性化に向けて、8組のソーシャルビジネス事業者を集めて指導する半年間の伴走型の支援プロジェクトや、プロボノの育成事業を展開しています。定員を超えるエントリーがあり、自治体職員や大企業にお勤めの方など、多様な属性の方が新しい働き方や社会との接点を求めていることを実感しています。

1 2 3 4

登録日 2016年8月18日（木曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



- イベント・メルマガ
- 研修・オープン会議
- 学習教材・統計
- コラム・事例紹介
- タウンプロデューサー
- まちづくり掲示板
- 政策関連情報
- このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社” 治田 友香 さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社”

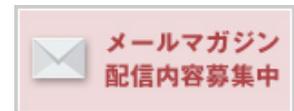
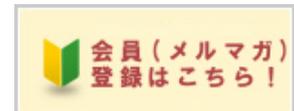
3.5年間の実績と他地域への示唆について

Q. “mass×mass”はこの春で5周年を迎え、この間に100社を超える入居企業、1,000近い受講者があったとお伺いしています。これまでの取組実績についてお聞かせいただけますか。特に、まちづくりとの関わりで面白い事例があればご紹介ください。

まちづくりに関わるユニークな事例としては、シェアオフィス“TENTO”の入居者でもあるタイププロジェクト株式会社が、横浜クラウドファンディングを活用して、横浜のまちをイメージしたフォント「濱明朝」の開発を行っています。これは、横浜が持っている個性をフォントのデザインに取り入れ、様々な媒体を横断しながら一貫性を持って使うことで、都市のアイデンティティ形成への貢献を図るプロジェクトです。

フィールドワークを通じて得られた横浜のイメージや、開港150周年を機に行われた、市民参加のブランディング事業で出された2,000件以上の言葉を参考に、「おしゃれな街」、「歴史とともにある港」、「伝統と新しいものとの共存」といったキーワードを抽出しました。これらのキーワードを元に、横画には港を往来するフェリーを、縦画には海上から望む建築群をイメージし、太さのバリエーションと縦画と横画の対比を際立たせたフォントの開発を実現しています。

「濱明朝」開発プロジェクト



もっと詳しく検索する



<http://typeproject.com/projects/cityfont-yokohama/>

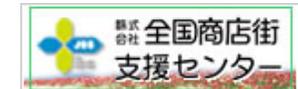
ソーシャルビジネス関連講座の受講生の取組としては、シェアオフィスに本拠を構えている株式会社「えと菜園」が、熊本県で栽培される安心・安全な農作物を扱うオンラインショップや、農薬を使わない野菜作りが学べる農園「コトモファーム」の運営、そして求職中の路上生活者と人手不足の農業をつなぐ就農プログラムの3つの事業を展開しています。最近、有機農法を身につけた路上生活者の生産者への就労あっせんがうまくいき始めており、全国にネットワークを拡大しようとしています。

また、コワーキングスペースに入居している株式会社トライフは、Japan venture awards2015 経済産業大臣賞を受賞された注目のソーシャルベンチャー企業です。口の中のトラブル原因菌を殺菌しながらも、飲み込んだら安全に消化される100%天然原料のオーガニックマウスケアブランド「オーラルピース」の製造・販売を行っており、また事業を通じた障害者の社会参加と収入向上のプロジェクトを進めています。

トライフ創業者の手島さんからは、起業家にとって大切なのは“出会い”“縁”であり、シェアオフィス、コワーキングスペースがある事が、起業家にとってはもちろん、地域や街にも必ず良い影響があるはず、とおっしゃって頂いたことがあります。“mass×mass”が、起業家の拠点としてまちづくりに貢献していると感じていただけるのではないかと思います。

Q. 素晴らしい実績の陰には、いろいろとご苦労もあったと思います。成果をあげるための注力点や、課題があればお伺いできますか。

会社として存続していくためには、もちろん毎年度の受注が最も大変ですが、常に地域から見られている存在であるため、事業を通じて成果をあげることに心がけてきました。例えば、2割の手数料を頂いているクラウドファンディング事業にしても、それ以上の工数をかけて成果がでるように頑張ってい



ます。

課題は、講座を受けた受講生が必ずしも横浜に定着するわけではないということです。横浜は東京に近いので、ビジネスを行う地域としてはどうしても埋もれてしまいます。新聞でも横浜で何か面白いことをやっても全国版に載ることはめったにありません。残念ながら、まだ横浜には地域の中でビジネスの受発注を行うエコシステム（生態系）が出来上がっていないと感じています。

例えば、ITベンチャーはここで立ち上がっても、必ずといってよいほど、受注機会を求めて東京に行ってしまう。また、活動地域を地方都市、さらには海外に求める事業者も存在しています。

でも何もしないのでは、ますます埋没してしまいます。人材育成を行うとともに、情報発信や、顔の見えるネットワークづくりを通じて、起業家を支えるエコシステムを強化し、少しでも横浜のまちづくりに貢献しようと努力しています。

Q. 東京の影響を受ける環境でありながら、どうして“mass×mass”を横浜で実現できたのでしょうか。もし地方都市で展開するとした場合、成立するための条件はどのようなことになりますか。

横浜はビジネスの場として不利なところもありますが、“mass×mass”が5年間続けてこられたのは、場所が横浜だったからということも事実です。東京でやっていたら、厳しい競争の中で生き残れなかったと思います。横浜は東京から適度に離れているからこそ、低家賃で活用できる空きオフィスが存在していたり、じっくりと事業に取り組む時間を確保できたり、といったメリットもあったと思います。地方都市にも同じことが当てはまるのかもしれませんが。

また、街づくりのための人材が必要なのは、東京や横浜のような大都市に限った訳ではありません。どこの地域も課題を抱えていて、それを解決するためには、そのための人材が求められているはずで、ですから、こうした地域の拠点となる都市に関内イノベーションイニシアティブのような人材育成のための機能を確保していくことには意味があると思います。

ただし、人口が一定以上の規模の都市というように全国満遍なく、機械的に施設を配置してもうまくいくとは思えません。人材育成の必要性を理解し、やる気を持った地域が取り組まなければだめだと思います。そのためには、やる気のあ

「豊かな地域の未来を創る！5年先のありたい姿を描く
“ボランティア団体”育成プログラム」から



る地域に対しては政府が資金提供してもよいのではないのでしょうか。

地域に人材が育っていなければ、外部の人材を登用することも有効です。ただし、その場合は外部人材の登用期間を限定し、地域の人材を育てるようにすべきだと思います。



<http://massmass.jp/project/20150706/>

将来、地域活性化を担う人材育成の機能が各都道府県に形成され、それがネットワークで結ばれば、新事業をはじめとして、いろいろなことが出来るようになるでしょう。その際には、われわれもネットワークの一員としてぜひ参加したいと思います。

1 2 3 4

登録日 2016年8月18日 (木曜) 00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省 (法人番号 4000012090001)
主催/経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局/株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社” 治田 友香 さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

あたらしい価値を創り出す人を応援する“まちづくり会社”

4. これからの取組について

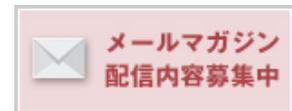
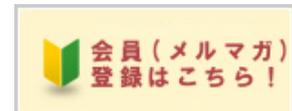
Q. 関内イノベーションイニシアティブとしては、これからどのようなことに取り組んでいきたいとお考えですか。

これまでソーシャルビジネスの振興を中心に推進してきましたが、これからはもう少し幅を広げて地域の中小企業の支援を行ってみたいと考えています。具体的には、クリエイティブな事業に取り組む中小企業とクリエイターを結びつける支援をできればと考えています。

例えば、デザイン関連の事業を起す際にも、わざわざ東京から地域のことが分からないクリエイターを引っ張ってくるのではなく、横浜の中で関係者のつながりを作り出し、チームとして取り組んでもらうための場を創っていければいいなと思います。そのためにも顔の見える人的ネットワークが必要だと思っています。

実は、最近になってこうした知見を持つ入居者ができており、肌感覚で実現性を感じています。こうした動きを発展させて、次の取組につなげたいと思います。その際には、社会的な視点を持つことが必要になるはずで、その時は私達が蓄積してきたソーシャルビジネスの考え方がきっと役に立つと信じています。

現在、地域に貢献しつつ、活動の原資となる収益を確保できる新事業のアイデアを暖めているところです。これからの活動にも、ぜひご期待ください。



もっと詳しく検索する



 シェアする [Tweet](#)

1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

関内イノベーションイニシアティブ

シェアオフィス“mass×mass”

「濱明朝」開発プロジェクト

登録日 2016年8月18日（木曜）00:00





[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.